

瑞穂地区まちづくり 協議会だより

《瑞穂地区のめざす将来の姿》

みんながふれあい 支えあい 思いやりのある 明るく住みよい地区・瑞穂

第40号 令和2年9月25日発行

事務局：瑞穂地区公民館内（鳥取市気高町下坂本48-4）

TEL (0857) 82-2206 FAX (0857) 82-2262

今年度は新型コロナウイルスの影響で、地区運動会・地区文化祭をはじめ様々な事業が中止となっています。また、地球温暖化により世界各地で異常気象がおこっており、日本でも特に大雨による災害が各地で発生しています。各集落の協力で今年もコスモスの種を蒔いたのですがきれいに咲いてくれるか心配です。

台風や地震といった災害の発生を防ぐことはできませんが、被害を少しでも減らす減災のためには、地域の防災力の向上がとても重要です。そのために地区防災訓練を10月に行います。

今回は、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所の運営方法について学びます。

地区防災訓練

日時：10月11日(日) 10:00~12:00

場所：瑞穂地区公民館

内容：防災講演会、簡易ベッド・トイレの設置方法、炊き出し訓練

演題：新型コロナウイルス感染症の状況下における避難所運営について

講師：漆原和弘さん（鳥取市危機管理課防災支援係 防災コーディネーター）

有田陽二さん（鳥取市危機管理課防災支援係 防災コーディネーター）

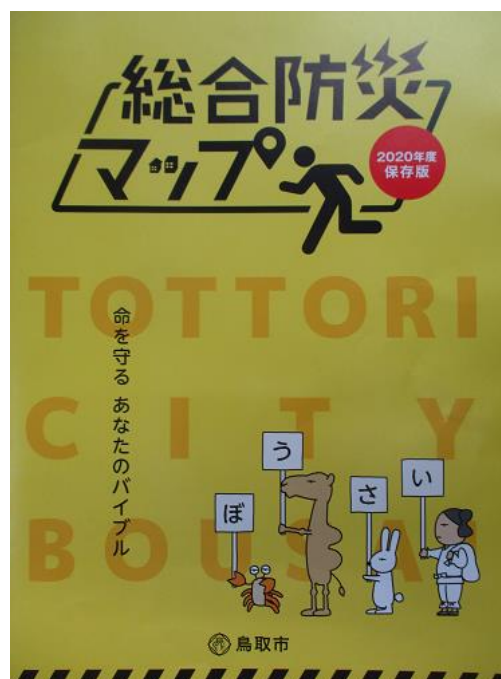
※訓練にはどなたでも参加できますので、当日ご自由におこしください

総合防災マップを活用してください

災害時には「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとることが大切です。そのためにも災害に対する知識が必要です。普段から災害について学び備えておきましょう。今年3月に鳥取市から各世帯に総合防災マップが配布されました。そこにはとても重要な情報がたくさんついていますので、ぜひご活用ください。

(1) 防災マップで自分の家の場所を確認しよう

防災マップには、災害時の危険箇所や避難場所の位置が示されています。瑞穂地区は、大雨時の河内川の氾濫による洪水と土砂災害が心配されます。P7とP19に瑞穂地区の防災マップが記載されていますので、そこで自分の家がどのような場所にあるのかを確認してください。河川氾濫浸水深と土砂災害警戒区域によって避難する時の行動が変わりますので、自分はどのタイミングでどう避難するかを確認してください。防災マップの見方は、P1・2に、避難する時の行動については、P59・60に記載されています。



(2) 避難場所について

避難とは難を避けることで安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。しかし、少しでも危険な場所にいる場合は、早めの避難を心がけましょう。瑞穂地区内には、指定緊急避難場所が3ヶ所あります。しかし、住んでいる場所によっては隣の地区の避難場所の方が近いこともあります。

また、災害の種類によっては使えない場所もありますので、どの災害の時はどこに避難するかを家族や集落であらかじめ決めておきましょう。避難先も指定避難場所だけでなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。最近では車を避難場所とする人もいますが、周囲の状況等を十分確認してください。

<瑞穂地区内指定緊急避難場所>

・瑞穂小学校	洪水（2階以上）	土砂○	地震○	津波○
・瑞穂地区公民館	洪水（2階以上）	土砂×	地震○	津波○
・瑞穂小学校グラウンド	洪水×	土砂×	地震○	津波○

(3) 非常持出品・非常備蓄品について

避難する時、防災リュックに入れておく非常持出品や、家族が自宅で最低3日間過ごせるための非常備蓄品については詳細がP65にのっていますので準備しておきましょう。なお、新型コロナウイルス感染症が収束していない今では、マスク・消毒液・体温計等も持出品に追加しておきましょう。



(4) 災害情報の収集について

今では、テレビ・ラジオ・インターネットなど様々なものから情報を得ることができます。災害時には自主的に正確な情報を得ることが大事ですので、P66～68を参考に情報を得る方法を確保しておきましょう。地震やゲリラ豪雨のような突発的な災害は事前に情報を得ることが難しいですが、台風や大雨については、数日前から予報がでていますので、早め早めに行動しましょう。

防災資機材の整備

災害時の活動には、様々な資機材が必要で、それはコミュニティ規模によって種類がかわってきます。個人・家庭では、自分や家族を守るために必要な非常持出品・備蓄品や家庭用消火器など、集落・町内会では、近所で協力し助け合って行動（救出・救護・避難活動）するのに必要な資機材、地区では避難所運営のための資機材などが必要となります。

まちづくり協議会でも、地区資機材として少しずつですが整備していています。しかし、まだまだ必要なものが多数ありますので、年次計画的に整備していきます。皆さまの家庭や集落でも必要な資機材を整備していただき、災害に強い『まち』にしていきたいと思います。

